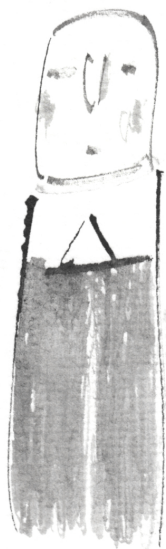


草筆木筆で描く不思議のらんたち

草画帖

60



銀
香
号



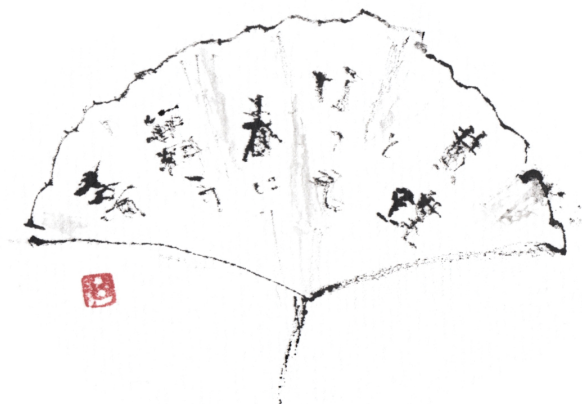
銀杏号です、

葉柄を筆にします。

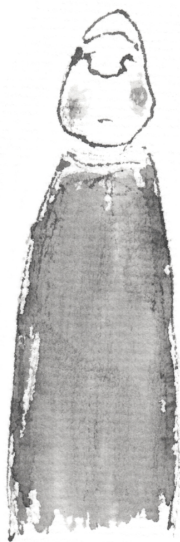
葉に描いて遊ぶこともあります。

左は、いろは歌を銀杏面に。

鳶
一
羽
名
残
り
の
空
に
冬
の
月



イチョウは異蝶樹である。



しみじみとイチョウの葉に降られてみる。



この秋の思いは順々に黄葉落葉し…



化石のようだとされるひともいる。

異
蝶

1

黄葉

落葉

蝶が舞う

幻野の

異蝶

墨をすり

きいろい

銀杏の

扇面に

蝶と書く

すると

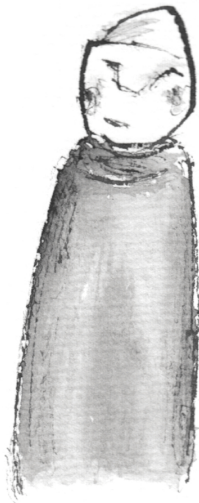
きまって

翌日の散歩で

銀杏の精のような

美しい一枚の葉

妖しい一頭の蝶に会う



老妻の語るいてふの実の童話



切株やあるくぎんなんぎんのよる 加藤郁乎
銀杏の季節になるとこの句がかってにころころあるき出す。



こころは
いまは
いまは
なご



空も川も流れる。時も心も移ろう。風羅漂泊。



はっぱも散った。いのりも散った。無方の未来へ散った。



秋から冬に見るイチヨウ科の蝶。

草話

古代インドでは多羅樹の葉を短冊に切つて経文を書いた。その名に因んだタラヨウ（多羅葉）という木も尖つたもので引つ搔いて文字や絵が書ける。そこから葉書という名称も生まれ、郵便局のシンボル・ツリーになっている。

平安時代には七夕の願いを梶の葉に書いた。墨の乗りがよいというから、いつか試してみたいと思う。

*

梶の葉はあおおとした頃のをを使うが、黄葉の美しい葉もいい。何年か前からアオギリを鉢で育てている。幼木一年目から身の丈に釣り合わぬ大きな葉を着け見事に黄葉した。それを記念して何か俳句でも書き付けたのが、葉に書いた最初であつたか。

イチヨウは葉の形が扇形で一枚一枚微妙な差異をもち、黄葉もまた美しい。書画の世界には扇に書くという文化がある。イチヨウの扇面に、イチヨウの筆（葉柄）で描くのは密かな贅沢である。

*

僧に化けた狸が写経した木の葉経、というのが蕪村の俳文にある。何の葉かまでは分からない。寺だからやはりタラヨウかもしれない。斉白石が絵をつけたという葉っぱ数枚がオークションに出たこともある。本物かどうかはともかく、葉と遊ぼうとする精神が愉しい。



カシオペア座/ 銀杏

俳句 白山鳥翁 / 絵 艸々子 / 詩 泉井小太郎

草画帖 第60号 2023年12月30日 泉井小太郎編集 六角文庫発行
〒675-2312 兵庫県加西市北条町北条1039 Tel 0790-42-6008